

2022年度 第8回理事会 議事録 2022.12.22

日時：2022年12月22日（木）19：00～21：49

場所：オンライン開催のため各自自宅・職場

出席理事：神保武則(会長)、田中ゆかり(副会長)、吉本雅一(事務局長)、玖島弘規、佐々木秀一、奥原孝幸、佐藤隼、遠藤陵晃、野本義則、神田崇央、佐藤範明、望月強併、戸塚香代子、澤口勇、西川航平、大郷和成(16名)

欠席理事：金山桂(副会長)、木村修介（2名）

出席監事：錠内広之(1名)

欠席監事：野々垣睦美(1名)

I. 会長より挨拶

今年最後の理事会となりました。12月には臨床作業療法大会の開催、40周年記念事業の終了などイベントが多数ありました。本日の理事会も多数の議案があります。円滑な議事運営にご協力をお願いします。

II. 審議事項について

1. 相模原市介護認定審査会 委員推薦について(事務局) →承認
2. 川崎市介護認定審査会 委員推薦について(事務局) →承認
3. 福祉を創る学校 後援名義使用について(事務局) →承認
4. 第20回神奈川県介護支援専門員研究大会 後援名義使用について(事務局) →承認
5. サブスクリプション制度導入について(会員増ワーキンググループ澤口理事) →持ち帰り再検討

新入会3年間は特定の研修会について無料に参加できるようにし入会者の増加を図っていきたい。

入会金と年会費は通常通り徴収するが、特定の研修会を無料にすることで新入会員の増加を図る事が狙い。領域を越えて広く研修会に参加していただくことで教育の充実も図りたい。収支予測についてはシミュレーションを行ったが、現会員の研修会参加増加がキーポイントとなるため、現会員の参加も推進したい。

<意見交換>

○県士会に入会する目的が研修会に参加することのみになり得ないか。3年間は期間として長すぎると感じる。入会記念キャンペーンなどと銘打って1年間でスモールステップを踏んではどうか。どちらにしてもデータの分析検証を行い企画のブラッシュアップは必要だと考える。

○新人を対象にした企画と考えると教育部の生涯教育は教育を進めるにあたって重要となる。生涯教育は対象となるのか。

→現職者共通研修を無料にすることはできるが研修会収入に大きな影響を与える可能性がある。他士会も確かに参加費を工夫している会もある。対象にする研修会をどの範囲にするかによって検討する必要性がある。しかし現職者共通研修会は基礎的な研修会であり、即時性を期待できる内容ではないので入会の強い動機になるのかは予測がつかない。

→作業療法士として基本的に必要な研修会のためきっかけとしては弱い。

○事業費に関わる事であるため詳細にリスクとベネフィットを検証し示してほしい。対象の研修会のパターンを複数設定し、明確に予測を示してほしい。

→この企画をきっかけに永続的に会員となってくれるような内容を立案してほしい。

→現会員の参加が鍵になっているためリスクは意外と高いと考える。

→詳細な収支予測を財務部、研修会部門と協力して示すようにする。

○研修会よりも学会や臨床大会の参加費を工夫する方がよいのではないか。

→財務状況的に厳しいと判断される。特典が年1回しか教授されない。

○入会者紹介キャンペーンなど考えてみてもいいのではないか。

○研修会無料が入会のきっかけとして魅力的なのか。そもそも入会することの必要性や魅力が伝わっているのであれば必要ないのではないか。

○新人(3年目まで)は学会や臨床大会で発表できるだけの余力がないと感じる。

○入会金の無料により金額面でも同様の効果が得られるではないか。シンプルな制度の方が対象者にも分かりやすくきっかけになるではないか。

→規約の変更等について検討が必要か。可能であればシンプルな対策の方が望ましい。

○多数の意見をもとに試行して検証することが良いのではないか。

→試行して検証できるよう来年度も担当する部署等を準備してほしい。

<結論>

今回出た多数の意見を持ち帰りワーキンググループにて再度検討し具体的な内容を再提案する。

Ⅲ.報告事項について(各部署・理事)

【各部署】

1. 事務局

(1)研修会参加非会員の勧誘活動について

会員増ワーキンググループ、研修会担当部署、規約委員会と共に検討し確定したため報告。個人情報規程に則って、申し込み時に個人情報を利用することを了承いただいた上で活用する。具体的には下記の方法。研修会申込時に「申し込み時にいただいた個人情報をもとに入会勧誘や研修会情報の送付などに利用することがあるので了承ください」と説明文を掲載し、了承の上で研修会に申し込んでいただく。

2. 広報部

(1)対外広報班活動について

ア)海老名おでんナイト

感染予防対策を遵守し実施。ブース来訪者は30名。自助具展示、介護相談、パンフレット配布を行い来訪者より好評を得た。食事自立のための自助具など多数の質問をいただいた。開催後部員の体調変化はなし。

イ)ラジオ日本ロイヤル介護相談室出演依頼

理事会の確認を経て12月19日に収録を終えた。作業療法士の紹介、認知機能低下予防について収録。放送は1月13日、20日22時15分～30分を予定。視聴エリアを確認し広報を行う。

ウ)FMサルース出演依頼

ソナエルラジオにて「リハビリテーションの視点から考える防災対策について」の出演依頼あり。2023年3月に収録予定。理事会で確認し出演とする。

<質問>

○全国放送か →視聴が可能な地域 FM84.1MHzにアクセスすれば視聴可能

○どのような経緯か →横浜市在勤部員がラジオ局関係者から紹介をいただいた

○広報してほしい →公式LINEアカウント、ウェブサイト管理委員会と連携して広報を行う予定

○制度対策部との連携 →積極的に行なう

3. 制度対策部

(1)県土会員安否確認システムの運用訓練報告

157名の会員に参加していただいた。エリア別に集計しそれぞれ多くの会員に参加いただきありがとうございました。多数のアンケート回答をいただいた。今後の活動の参考にしていきたい。今後の課題

は訓練の意義を明確にして伝えること、職場等の安否確認もあるため負担の考慮、会員情報の活用などが挙げられた。

(2)日本作業療法士協会 災害対策研修会参加報告

11月27日開催参加。災害支援ボランティアマニュアルについて、47士会訓練結果の共有、使用ツールなどについて報告・共有・検討があった。日本作業療法士協会においても災害訓練に参加する意義をより明確化し会員へ啓発できるようにしていく。

4. 学会評議委員会

(1)第5回臨床作業療法大会開催報告(佐藤実行委員長より)

参加人数は122名、スタッフを併せて総計140名程度の参加であった。県民公開講座では最大アクセス数101名、午後の専門職講演については最大アクセス数59名であった。経験年数10～20年目の作業療法士の参加が多かった。会場は業者によるテクニカルサポートを受けて、望月委員を中心にトラブルなく実施できた。アンケートでは満足度が高い回答が多く聞かれた。詳細は追って報告したい。ご協力ありがとうございました。

<神保大会長より>

参加された方々、お手伝い頂いた方々ご協力ありがとうございました。40周年記念事業として無事に開催ができました。今回は完全オンライン開催という特徴を生かして、遠方からの講師講演、多数の一般参加など新たな試みが行えました。今回得たノウハウを記録蓄積し、今後のマニュアル作りに活用してほしいと思います。非常に多くの一般の方々に参加していただきました。これからもステップアップ出来るように次回の大会に継承してほしい。

(2)第19回神奈川県作業療法学会について

学会ホームページが公開開始。1月20日より発表意思表示期間が開始される。多くの会員に発表をしていただきたい。理事役員からも周囲の会員に広報をお願いしたい。講演については内諾で20講演程度をいただいている。

【理事】

1. 田中理事

(1)40周年記念事業プロジェクトチームより報告

第5回臨床作業療法大会開催でフィナーレを無事に迎えた。

ア)チャレンジ動画について

県内養成校に協力をいただいて鋭意撮影中。1月に公開予定。多種のツールで公開。

イ)40周年記念事業について

第5回臨床作業療法大会にてフィナーレ。アーカイブをホームページに公開予定。

イ)県士会ロゴマークについて

40周年記念バージョンの使用は終了。通常ロゴマークはチラシや広報にぜひ活用継続してほしい。特賞、入賞者に記念品を送付する。

(2)第3回47都道府県委員会報告について

以下の内容について報告があった。

中村会長からのメッセージ、国連人権委員会障害者の権利に関する条約、謝金規程の見直し(規程改訂を進める方針)、組織率向上について(学生連盟との協業)、事例登録制度(新基準)、災害シミュレーション訓練報告、倫理規定変更について、選挙管理委員会(役員・代議員選挙方法変更)、女性会員の参画促進について、次回委員会のハイブリット開催について(3月11～12日予定)

<神保会長より>

医療モデルから生活モデルに変換し作業療法士はその点に従事していくことが大切。トリプル改訂を見据えて厚労省からも期待されているように、「質の向上と担保」を図っていくことが協会、当会ともに必要。中村会長のコメントを伺いその思いを強くした。3月の委員会は多くの理事に出席してほしい。

<質問>

インクルーシブ教育については何か話題提供があったのか

→障害はミックスで考える、社会が変化することで障害者を支えることが重要と話題提供あり。

IV. 事業・予算計画

前回のプレゼンテーションから計画変更があった部署より内容を説明し確認。特段異論はなし。予算案の総額は今年度と大きな変化はなし。研修会収入を明確化する。また前段で提案のあった『サブスクリプション』の影響も検証し予算案を作成する。事業計画・予算案は次回理事会で審議決定する予定。事業継続ができるよう今一度確認してほしい。もし予算案変更がある場合は田中副会長と財務部に連絡を行う。

V. 組織改編

1. 組織構成案の再説明(神保会長)

詳細を再度説明。今後組織改編を検討するにあたって、組織図(案)をもとに引き続き検討を行うことにコンセンサスを頂き決議を行いたい。

2. 意見交換と確認

○組織図(案)の何について決議したいのか

→法人管理運営部門(2部署)、公益管理事業部門(5部署)が対象

○法人管理運営部門(2部署)、公益管理事業部門(5部署)についても検討調整を行うのか

→必要があれば検討する

○エリア化委員会については役割の詳細が明確化されていないがその点は今後も検討可能か

→引き続き検討していく

○各部署に紐づけされている委員会や班についても今後具体的に検討し調整するのか

→引き続き検討し具体化していく

○決議をとるとはどんな意味があるのか 10月度の理事会ですでにその点を検討したと認識している

→11月理事会でコンセンサスを適正に行ってほしいと要望があり今回の説明と確認に至った

→今一度理事全員の確認を得ることが重要と考え今回の機会としている

○各理事から意見を募ってきたが十分な内容が反映されていると感じていない

→理事数、委員会・班、委員長・班長など細部に関しては今後も検討していく課題と認識している

→理事数は定款を基に規定されているがどのように運営していくのかは今後の検討を続ける

<結論>

提案された組織図(案)を基に引き続き組織改編について検討をしていく

3. 今後の検討課題について

三役理事がリーダーとなって仮案の各部に関連する部署が集合し、組織全体を横断的に俯瞰し、新組織図の完成度を向上させるために、実務的な各事業の課題抽出と対応案を検討および共有をする。以下の作業を1月～2月に行い検討整理していく。

①各部・委員会の業務内容を共有する。

②業務内容や運営等、包括や共有ができる部分(できない部分)を抽出する。

③各部署内で構成したほうが良い委員会や班を検討する。

<意見交換>

- 我々の任期の中で行うべきこと、次の役員に引き継ぐことを明確化しておく必要があると考える
→来年度に引き継ぐ内容を任期中に明確化して提示できるようにする
- 組織図を明確化して社員総会に提出できるようにしてもいいのではないか
→組織図を明確に社員総会に提出してしまうと議論を継続することが出来なくなる
- 会員に検討している内容を適正に広報しておく必要があるのではないか
- 部署に紐づけされる委員会・班について検討し議論が進んでいくと理解している
- 社員総会では理事会で組織改編を検討している事を公表することが良いと感じる
- まずは担当する部署が関連グループで集まり詳細を検討整理することが必要と感じる
- 今後全体の組織図を改めて検討する機会を持つことが必要と感じる
- 組織改編は非常に難しい案件でありどのように進めるか正解はない
- 全体像は理解できたのではないか
- 何から優先して決定していくのか明確化してほしい
- 三役と理事が協力しながら議論を引き続き進めてほしい

<結論>

提案した検討課題の議論を開始する。各グループで1月に初回会議を行い主に課題の洗い出し、2月に具体的な内容を検討していく。

VI.その他 連絡事項等

1. 議事録署名人について

吉本事務局長から指名があり決定する。神保会長、錠内監事、奥原理事、遠藤理事。

2. 2023年度社員総会について(事務局・財務部)

日程は2023年5月を予定。前回同様に議案書を円滑かつ早期に作成し少しでも早く代議員の手元に届けられるよう運用したい。本件は1月より開始する。また決算と期末監査に関しても早期に行えるように協力を依頼し共有した。

3. 役員選挙について

1月に公示予定。選挙方法については規約を含めてワーキンググループにて検討中。前回選挙課題点についても共有する予定。選挙方法については理事会で検討する予定。

4. 神奈川県立保健福祉大学設立20周年記念式典について

諸般の事情から欠席のため祝電を送らせていただく回答を行った。しかし県知事を始め衆議院議員、市議会議員、地元企業の代表者、医療福祉介護関連団体の代表者、その他有力者など多数出席の予定となっている。当会は会長が出席できないのであれば他の理事役員で出席した方が良いと考える。

→再度予定を調整し出席する意向で検討する。奥原理事と連携し対応する。

5. 2023年～2026年度の4か年計画(中・長期計画)案について

提案について理事より多数の意見をいただいた。意見を三役で整理し再検討し再度理事会で確認し決定する。

6. 監事より

(1)錠内監事

お疲れさまでした。組織改編については意見交換でお伝えした通りです。

今年最後の理事会でしたが来年も課題が山積しています。皆さんの力を合わせて円滑な議論審議に引き続き協力をお願いします。

議事録署名人	議長：	神保 武則	印
	理事：	奥原 孝幸	印
	理事：	遠藤 陵晃	印
	監事：	錠内 広之	印

次回理事会日程：2023年1月19日(木)19時より開催予定